

株式会社奥村組 様

阪神高速道路株式会社

入札説明書(技術提案書等含む)及び設計図書等に対する質問回答書

工事名 : 海老江換気所新築その他工事 質問提出日:2020年 6月17日 質問回答日:2020年 7月21日	
質 問	回 答
番号1 数量書P21にて函体トンネル～屋外階段取合の緩衝材が1.7m2計上されていますが、施工範囲を御指示下さい。	番号1 意匠図A-71図D-4において、函体トンネルと換気所側階段の取り合い部とお考えください。
番号2 A-2,23 耐圧盤下の地業について、下記の様に相違します。特記仕様書(2)を正と考えて宜しいでしょうか。 ・特記仕様書(2) 捨てコンt=50,砕石t=60 ・矩計図(1) 捨てコンt=200,砕石t=50	番号2 捨てコンクリートについては2020年6月5日掲載の受付番号1の質問回答書「番号18」の回答をご参照ください。 砕石については、換気所基礎フーチング下部はt=50、基礎梁及び耐圧盤下部はt=60とお考えください。 なお、「意匠図A-2,23,25,27,29,31,34」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号3 A-2、S-19 コンクリート強度について、1FLの強度が下記の様に相違します。軸組図を正と考えて宜しいでしょうか。 ・軸組図 Fc-33 ・特記仕様書(2) Fc-30	番号3 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「意匠図A-2」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号4 A-27,33、S-13,14 B2階柱・B1階床梁伏図について、片持ちスラブFCS2の図示がありますが、矩計図では、1FL-3545の位置にあり、スラブ下埋戻しの図示となっております。B1階梁伏図のFCS2は不要とし、1階床伏図のCS1の範囲でFCS2を見込み、天端レベルは1FL-3545と考えて宜しいでしょうか。	番号4 片持ちスラブFCS2については、構造図S-13B1階床梁伏図のとおりとお考えください。 なお、構造図S-14B1階柱・1階床梁伏図に記載のCS1は不要です。 「構造図S-14」について、別添正誤表のとおり修正いたします。 片持ちスラブFCS2の天端レベルについては、ご質問のとおりとお考えください。

質 問	回 答
番号5 A-43、S-13,19,44 地中梁・壁・床の開口について、意匠図と構造図で位置及び径・箇所がくい違います。全て、意匠の平面詳細図を正と考えて宜しいでしょうか。	番号5 ご質問のとおりとお考えください。
番号6 A-43 B1平面詳細図(2)について、D通り/5-6に壁開口(電・営電)と図示がありますが、振り分けが不明です。御指示下さい。	番号6 壁開口(電・営電)については、意匠図A-56をご参照ください。
番号7 S-32 壁リストについて、共通事項のひび割れ防止筋の溶接金網の寸法は四隅共600×300(ダブル)と考えて宜しいでしょうか。	番号7 ひび割れ防止筋の溶接金網については、2020年6月23日掲載の受付番号3の質問回答書「番号7」をご参照ください。
番号8 金抜内訳書より、コンクリート工事に打継面処理が986m²計上されていますが、計上範囲を御指示下さい。	番号8 コンクリート工事の打継面処理については、2020年6月23日掲載の受付番号3の質問回答書「番号2」をご参照ください。
番号9 A-86、S-13 山留について、B1階床梁伏図より、⑥通り+3710通りにFCB1の図示があり、山留面より外にありますが、このまま仮設計画図(2)の通りと考えて宜しいでしょうか。	番号9 FCB1については1FL-4300を梁天端とお考えください。 なお、「構造図S-13,18」については別添正誤表のとおり修正いたします。
番号10 S-03,44 梁貫通補強凡例について、RC, SRC梁はS-03図参照と記載がありますが、補強要領の記載がありません。S-37図を参照すると考えて宜しいでしょうか。	番号10 梁貫通補強については、2020年6月23日掲載の受付番号3の質問回答書「番号22」をご参照ください。

質 問	回 答
番号11 数量書P15 鉄筋工事の鉄筋加工組立のSRCラーメン構造数量はSRC部材のみ(地中梁・柱・梁の該当する部材)とし、その他はRCラーメン構造数量と考えて宜しいでしょうか。	番号11 ご質問のとおりとお考えください。
番号12 コンクリート強度は$F_c = F_d$と考えて宜しいでしょうか。	番号12 コンクリート強度については、6月15日掲載の受付番号1(再回答)の「番号24」をご参照ください。
番号13 A-72 部分詳細図(3) D3-15シャッター補強間柱H-250×100×5.5×8について、JIS規格品がありません。H-200×100×5.5×8と読み替えて宜しいでしょうか。また、読み替えずH-250×100×5.5×8とする場合は単位重量を御指示下さい。	番号13 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「意匠図A-72」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号14 A-72 部分詳細図(3) D3-15シャッター補強間柱BPL-150×250について、t12と考えて宜しいでしょうか。	番号14 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「意匠図A-72」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号15 S-33 雑詳細図(1) 点検歩廊 a、b材[-100×50×5×7.7について、JIS規格品がありません。[-100×50×5×7.5と読み替えて宜しいでしょうか。また、読み替えず[-100×50×5×7.5とする場合は単位重量を御指示下さい。	番号15 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「構造図-33」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号16 A-71 部分詳細図(2) D2-2屋上目隠しルーバー胴縁C-50×100×3.2の取付ボルトについて、胴縁C-50×100×3.2の取付ボルトについて、BN 2-M16を見込んで宜しいでしょうか。	番号16 胴縁取付ボルトはBN2-M16とお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P30」について、別添正誤表のとおり修正いたします。

質 問	回 答
番号17 S-33、A-71 雑詳細図(1) 目隠し詳細図 胴縁C-150×65×20×3.2について、意匠図ではC-100×50×20×3.2となっており、くい違います。意匠図を正とし、C-100×50×20×3.2と考えて宜しいでしょうか。	番号17 胴縁についてはC-150×65×20×3.2とお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P30及び意匠図A-71」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号18 A-71、金抜設計書30 金抜設計書 鉄骨工事 ルーバー下地(外部)鉄骨 溶融亜鉛メッキについて、HDZ55となっていますが、意匠図ではHDZ50となっており、くい違います。意匠図を正と考えて宜しいでしょうか。また、屋上目隠しルーバーのメッキ仕様も同様にHDZ50(胴縁HDZ45)と考えて宜しいでしょうか。	番号18 金額を記載しない設計書P30のとおりとお考えください。 なお、「意匠図A-71」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号19 A-70 部分詳細図(1) D1-8鉄骨階段柱基礎 アンカーボルト M20 L=700について、構造図ではL=500となっており、くい違います。構造図を正とし、L=500と考えて宜しいでしょうか。	番号19 ご質問のとおりとお考え下さい。 なお、「意匠図A-70」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号20 S-41 屋外鉄骨階段詳細図(1) R1FL ササラPL-9のRC部アンカー取付について、下記の様に見込んで宜しいでしょうか。 ・BPL-16×200×200 ・AB 2-M16 L=400(SS400)	番号20 構造図S-41鉄骨階段詳細図に記載のササラ柱脚部記載のとおり、下記とお考えください。 ・BPL-16×200×300 ・AB 2-M16 L=400(SS400)
番号21 S-41、A-37、金抜設計書28 屋外階段メッキ仕様について、金抜設計書より、HDZ55(胴縁はHDZ35)と考えて宜しいでしょうか。	番号21 ご質問のとおりとお考えください。
番号22 A-73 部分詳細図(4) D4-1 B2階点検ステージ A断面について、B2FL+580にH形梁、溝形梁の記載がありますが、構造図には記載がなく、くい違います。意匠図を正とし、見込むと考えて宜しいでしょうか。	番号22 ご質問のとおりとお考え下さい。 なお、「構造図S-34」について、別添正誤表のとおり修正いたします。

質 問	回 答						
番号23 金抜設計書23 金抜設計書鉄骨工事 本体 SN490B H-700×300×13×24について、リストに記載がありません。SN400Bと考えて宜しいでしょうか。 正の場合、金抜設計書34.63t、積算数量34.68tとなります。	番号23 金額を記載しない設計書P23のSN490B H-700×300×13×24はSN400B H-700×300×13×24とお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P23」について、別添正誤表のとおり修正いたします。						
番号24 S-40、金抜設計書26 アンカー伏図 2通り/A、D通り 柱脚(C2 BPL下端BFL-3310)について、アンカーボルトと記載がありますが、金抜設計書は後施工アンカーとして計上されているかと思えます(その他BFL-3310の柱脚は後施工アンカーのため)。ですが、図面に倣い、2通り/A、D通り 柱脚(C2)はアンカーボルトと考えて宜しいでしょうか。 金抜設計書 上記正の場合 <table><tr><td>・アンカーボルトSS400M24 L=1000</td><td>56本</td><td>64本</td></tr><tr><td>・接着系アンカーSS400M24 L=300</td><td>40本</td><td>32本</td></tr></table>	・アンカーボルトSS400M24 L=1000	56本	64本	・接着系アンカーSS400M24 L=300	40本	32本	番号24 アンカー伏図 2通り/A、D通り 柱脚については、構造図S-40記載のとおり後施工アンカーとお考えください。
・アンカーボルトSS400M24 L=1000	56本	64本					
・接着系アンカーSS400M24 L=300	40本	32本					
番号25 金抜設計書25 金抜設計書鉄骨工事 本体 トルシア形高力ボルトS10T M20 L=100について、L=95と読み替えて宜しいでしょうか。(継手リスト(S-33) H-900×300×16×28 フランジ面28+19+19+M20(30)≒95)	番号25 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P25」について、別添正誤表のとおり修正いたします。						
番号26 金抜設計書23、金抜設計書24 金抜設計書鉄骨工事 本体 下記鋼板について、該当か所が不明です。適用はなしと考えて宜しいでしょうか。 ・SN490B PL-6 0.05t ・SN490B PL-22 0.61t	番号26 ・SN490B PL-6 0.05tについては梁貫通補強とお考えください。 ・SN490B PL-22については、SN490B PL-19 フランジ内側のスプライスPLとお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P24」について、別添正誤表のとおり修正いたします。						
番号27 金抜設計書24、A-2 金抜設計書鉄骨工事 本体 鋼板SN490B PL-28 0.38tについて、C3、3a BPL(S-40)だと思いますが、A-2に倣い材種はSN400Bと読み替えて宜しいでしょうか。	番号27 金額を記載しない設計書P24に記載のとおり、SN490Bとお考えください。 なお、「意匠図A-2」について、別添正誤表のとおり修正いたします。						

質 問	回 答									
番号28 金抜設計書23、金抜設計書24 金抜設計書鉄骨工事 本体 鋼板について、受領明細と積算数量がくい違います。積算数量を正と考えて宜しいでしょうか。 ・SN490B PL-12 2.69t 2.924(SPL)t ・SN490B PL-19 1.94t 3.431(SPL2.506+鋼板0.925)t ・SN490B PL-25 1.31t 2.26(鋼板)t ・SN400B PL-12 0.64t 1.268(SPL)t ・SN400B PL-19 1.94t 3.885(SPL3.412+鋼板0.473)t ・SN400B PL-25 1.33t 0.558(鋼板)t	番号28 金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。									
番号29 金抜設計書27、S-41 金抜設計書鉄骨工事 屋外階段ではSG1(SN400B H-148×100×6×9)がSS400材として計上されているかと思いますが、図面に倣い、SN400B材と考えて宜しいでしょうか。	番号29 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P27」について、別添正誤表のとおり修正いたします。									
番号30 S-41 屋外鉄骨階段詳細図(1) SG1(L=2300程度)について、現場継手を1か所見込むと考えて宜しいでしょうか。 また見込む場合、要領はSCSSに倣うと考えて宜しいでしょうか。	番号30 S-41 現場継手はないものとお考えください。									
番号31 金抜設計書28、金抜設計書29 金抜設計書鉄骨工事 屋外階段について、下記数量が金抜設計書と積算数量でくい違います。 受領明細は柱現場継手を1か所見込んでいると思われませんが、図面では2か所となっていますので、図面通り2か所見込むと考えて宜しいでしょうか。 <table><tr><td></td><td>金抜設計書</td><td>積算数量</td></tr><tr><td>・現場溶接</td><td>9.8m</td><td>22.4m</td></tr><tr><td>・超音波探傷試験 現場</td><td>8か所</td><td>16か所</td></tr></table>		金抜設計書	積算数量	・現場溶接	9.8m	22.4m	・超音波探傷試験 現場	8か所	16か所	番号31 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P28、29」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
	金抜設計書	積算数量								
・現場溶接	9.8m	22.4m								
・超音波探傷試験 現場	8か所	16か所								
番号32 金抜設計書27、金抜設計書28 金抜設計書鉄骨工事 屋外階段について、トルシア形高力ボルト(S10T M16 L=55)が計上されていますが、工場錆止め塗装塗りが計上されていないため、溶融亜鉛メッキ高力ボルトと読み替えて宜しいでしょうか。	番号32 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P27、28」について、別添正誤表のとおり修正いたします。									

質 問	回 答																		
番号33 A-37、金抜設計書28 鉄骨階段詳細図 胴縁C-100×50×20×2.3について、取付GPL-9、BN 2-M16(L=40)と考えて宜しいでしょうか。 また、正の場合金抜設計書には普通ボルトSS400 M16 L=40は計上されてないため、積算数量とくい違いますが、積算数量を正と考えて宜しいでしょうか。	番号33 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P28」について、別添正誤表のとおり修正いたします。																		
番号34 A-71 部分詳細図(2) D2-3外装ルーバー詳細図 平面図L-50×50×4@1200の取付ボルトについて、HTB 2-M16(L=45)と考えて宜しいでしょうか。(金抜設計書では見込まれていません。)	番号34 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P30」について、別添正誤表のとおり修正いたします。																		
番号35 金抜設計書30 受領明細鉄骨工事 ルーバー下地(外部)鉄骨下記ベース底均しモルタルについて、金抜設計書と積算数量がくい違います。積算数量を正と考えて宜しいでしょうか。 <table><tr><td></td><td>金抜設計書</td><td>積算数量</td></tr><tr><td>・厚30 200×200</td><td>9か所</td><td>7か所</td></tr><tr><td>・厚30 250×175</td><td>7か所</td><td>9か所</td></tr></table>		金抜設計書	積算数量	・厚30 200×200	9か所	7か所	・厚30 250×175	7か所	9か所	番号35 ご質問のとおりとお考えください。 なお「金額を記載しない設計書P31」について、別添正誤表のとおり修正します。									
	金抜設計書	積算数量																	
・厚30 200×200	9か所	7か所																	
・厚30 250×175	7か所	9か所																	
番号36 金抜設計書33、A-71、A-73 金抜設計書鉄骨工事 その他(内部)鉄骨について、溶融亜鉛メッキはHDZ55となっていますが、意匠図ではHDZ50となっており、くい違います。意匠図を正とし、HDZ50と考えて宜しいでしょうか。	番号36 金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。 なお、「意匠図A-71,73」について、別添正誤表のとおり修正いたします。																		
番号37 金抜設計書32、金抜設計書34 金抜設計書鉄骨工事 その他(内部)鉄骨について、金抜設計書と積算数量が下記の様にくい違います。積算数量を正と考えて宜しいでしょうか。 <table><tr><td></td><td>金抜設計書</td><td>積算数量</td></tr><tr><td>・スタッドボルトφ10 L=100 (A-72 D3-16遮音壁のスタッドボルトです)</td><td>62本</td><td>37本</td></tr><tr><td>・ベース底均しモルタル140×140 (該当か所が不明です。)</td><td>36か所</td><td>なし</td></tr><tr><td>・ベース底均しモルタル250×150 (A-72シャッター間柱はA-40、42、44に4本あります。)</td><td>6か所</td><td>8か所</td></tr><tr><td>・アンカーボルトSS400 M20 L=400</td><td>なし</td><td>32本</td></tr><tr><td>・アンカーボルトSS400 M20 L=500</td><td>24本</td><td>なし</td></tr></table> (A-72シャッター間柱のアンカーだと思われていますが、意匠図ではL=400となっており、くい違います。)		金抜設計書	積算数量	・スタッドボルトφ10 L=100 (A-72 D3-16遮音壁のスタッドボルトです)	62本	37本	・ベース底均しモルタル140×140 (該当か所が不明です。)	36か所	なし	・ベース底均しモルタル250×150 (A-72シャッター間柱はA-40、42、44に4本あります。)	6か所	8か所	・アンカーボルトSS400 M20 L=400	なし	32本	・アンカーボルトSS400 M20 L=500	24本	なし	番号37 ・スタッドボルトφ10 L=100 について、金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。 ・ベース底均しモルタル140×140 ・ベース底均しモルタル250×150 ・アンカーボルトSS400 M20 L=400 ・アンカーボルトSS400 M20 L=500 については、「金額を記載しない設計書P34」を、別添正誤表のとおり修正いたします。
	金抜設計書	積算数量																	
・スタッドボルトφ10 L=100 (A-72 D3-16遮音壁のスタッドボルトです)	62本	37本																	
・ベース底均しモルタル140×140 (該当か所が不明です。)	36か所	なし																	
・ベース底均しモルタル250×150 (A-72シャッター間柱はA-40、42、44に4本あります。)	6か所	8か所																	
・アンカーボルトSS400 M20 L=400	なし	32本																	
・アンカーボルトSS400 M20 L=500	24本	なし																	

質 問	回 答
番号38 SRC梁のスリーブ補強の仕様(在来(補強要領)、既製品等)、径、箇所が不明です。御指示下さい。	番号38 SRC部梁補強位置、箇所数については、構造図S-44をご参照ください。 梁貫通補強の仕様については、2020年6月23日掲載の受付番号3の質問回答書「番号22」をご参照ください。
番号39 錆止塗装について、JISK5674工場2回塗りと考えて宜しいでしょうか。	番号39 ご質問のとおりとお考えください。
番号40 質回-9 基礎ボルト、モルタル充填は意匠図では別途工事と記載がありますが、6/5付回答番号9を正とし、建築工事と考えて宜しいでしょうか。	番号40 A-71 D2-6に記載のとおり、基礎ボルト、モルタル充填は別途工事とお考えください。
番号41 S-45 クレーンアンカー図 各部詳細図 姿図において、BPL詳細が不明ですが、不要と考えて宜しいでしょうか。	番号41 ご質問のとおりとお考えください。
番号42 A-54 R4 換気塔屋上排水溝の有無が不明です。 防水モルタル金罎+ウレタン系塗膜防水 W100×H15を見込んで宜しいでしょうか。	番号42 R4 換気塔屋上排水溝はないものとお考えください。
番号43 屋上 防水押えコン面排水溝は防水モルタル金罎仕上(溶接金網 φ 2.6 50角入り)W300と考えて宜しいでしょうか。	番号43 屋上 防水押えコン面には排水溝はないものとお考えください。
番号44 A-70 防水押えコン面伸縮目地及び防水立上り取合部緩衝材はW25と考えて宜しいでしょうか。	番号44 ご質問のとおりとお考えください。
番号45 A-54 小庇の排水溝は防水モルタル金罎+ウレタン系塗膜防水 W100×H15と考えて宜しいでしょうか。	番号45 A-54 R2階及びR4階部には排水溝はないものとお考えください。

質 問	回 答
番号46 A-3 塗膜防水 X-2について、種類がカラーとありますが、数量書明細よりシルバーと考えて宜しいでしょうか。	番号46 塗膜防水仕上げについては、2020年6月23日掲載の受付番号3の質問回答書「番号23」をご参照ください。
番号47 A-19 外壁 防汚タイルについて、他の仕上と取合う部分及び建具周囲にシーリングが必要と考えて宜しいでしょうか。	番号47 ご質問のとおりとお考えください。
番号48 A-27 外装ルーバー下部 下記の赤線部分の仕上が不明です。床:コンクリート金鍔押え仕上 立上り・揚裏:打放補修 素地と考えて宜しいでしょうか。	番号48 ご質問のとおりとお考えください。
番号49 A-37 屋外階段 下記の手摺について、H寸法が1500程度ありますが、他の手摺と同様にH=1100と考えて宜しいでしょうか。	番号49 ご質問のとおりとお考えください。
番号50 A-52 5階屋上 下記雲マーク部分はパラペットが伸びているものと考えて宜しいでしょうか。可の場合、断面詳細を御指示下さい。	番号50 ご質問のとおりとお考えください。 なお、当該部分の断面詳細図はございません。
番号51 A-70 ハト小屋等の壁付アゴH寸法について、部分詳細図(1)〈D1-7〉よりH=180とありますが、部分詳細図〈D1-1〉パラペットアゴに準じH=170に読替えて宜しいでしょうか。	番号51 意匠図A-70 D1-7に記載のとおりH=180とお考えください。

質 問	回 答												
番号52 A-6 館名板に○印がありますが、設計書数量にありません。1か所必要と考えて宜しいでしょうか。	番号52 金額を記載しない設計書P72をご参照ください。												
番号53 A-25 下記の雲マーク部分について、梁底も汚垂タイルと考えて宜しいでしょうか。	番号53 梁底タイルについては、2020年6月23日掲載の受付番号3の質問回答書「番号25」をご参照ください。												
番号54 金抜設計書39 下記項目の金抜設計書数量と積算数量において数量差異が見受けられます。積算数量を正と考えて宜しいでしょうか。金抜設計書数量が正の場合、施工範囲を御指示下さい。 <table><tr><td></td><td>金抜設計書</td><td>積算数量</td></tr><tr><td>・伸縮調整目地</td><td>385m</td><td>743m</td></tr><tr><td>・庇取合いシーリング</td><td>495m</td><td>440m</td></tr><tr><td>・地下外壁 特殊塗膜防水</td><td>1432m2</td><td>1241m2</td></tr></table>		金抜設計書	積算数量	・伸縮調整目地	385m	743m	・庇取合いシーリング	495m	440m	・地下外壁 特殊塗膜防水	1432m2	1241m2	番号54 金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。
	金抜設計書	積算数量											
・伸縮調整目地	385m	743m											
・庇取合いシーリング	495m	440m											
・地下外壁 特殊塗膜防水	1432m2	1241m2											
番号55 耐震スリット部分にシーリングを見込んで宜しいでしょうか。	番号55 金額を記載しない設計書P39の20×10 誘発目地に含まれるものとお考えください。												
番号56 A-70 詳細図D1-1.2 屋上アスファルト防水の床切付部が断熱材の図示となっておりますが、切付部にはW30の成形緩衝材を見込んで宜しいでしょうか。	番号56 伸縮調整目地W25とお考えください。 なお、「意匠図A-70」について、別添正誤表のとおり修正いたします。												
番号57 A-70 詳細図D1-1.2 屋上アスファルト防水の床伸縮目地材が図示ではW20程度ですが、数量書よりW25が正と考えて宜しいでしょうか。御指示下さい。	番号57 金額記載しない設計書P39記載の伸縮調整目地のとおりとお考えください。												

質 問	回 答
番号58 A-4 ルーフトレインの仕様が不明です。全て鋳鉄製と考えて宜しいでしょうか。	番号58 ご質問のとおりとお考えください。
番号59 数量書P44.45 屋根及び樋工事において、樋の役物が計上されておりましたが、適宜必要ヶ所に役物を適宜必要ヶ所には掃除口を見込んで宜しいでしょうか。	番号59 樋の継ぎ手等は金額を記載しない設計書P44,45のといに含まれるものとお考えください。 なお、掃除口については、ないものとお考えください。
番号60 A-4 特記4 屋根及び樋工事において、とい掃除口が設けなくなっておりますが、横引トレイン部等適宜必要ヶ所には掃除口を見込んで宜しいでしょうか。	番号60 上記番号59をご参照ください。
番号61 A-4 特記4 屋根及び樋工事において、足金物の仕様にアルミと溶融亜鉛メッキの2種記載がありますが、アルミ樋のみアルミ、他のVP・SGP樋は全て溶融亜鉛メッキと考えて宜しいでしょうか。	番号61 ご質問のとおりとお考えください。
番号62 A-4 特記4 アルミ樋はバントレスと考えて宜しいでしょうか。メーカー品番等ありましたら御指示下さい。	番号62 上記質問番号61の回答をご参照ください。 メーカー及び品番の指定はございません。
番号63 A-2.70 特記にて構造体コンクリートの仕上りについて、タイル下地面がA種とありますが、部分詳細図1より外壁仕上にB種のコンクリート打放しが正と考えて宜しいでしょうか。	番号63 タイル下地面はA種と考えください。 なお、「意匠図A-70」について、別添正誤表のとおり修正いたします。

質 問	回 答
番号64 数量書 型枠工事において、コーン処理 14865m2とありますが、該当範囲を御指示下さい。	番号64 B種型枠垂直面とお考えください。
番号65 A-3 コンクリートブロック帳壁及び塀の項目に○印がありませんが部分詳細図1にコンクリートブロックの記載があります。適用するものと考えて宜しいでしょうか。	番号65 ご質問のとおりとお考えください。
番号66 A-70 詳細図D1-5 化粧型枠部詳細において、モールドスター部の型枠に化粧打放と記載がありますが、数量書 P20ではリブ模様型枠はB種となっております。A種が正と考えて宜しいでしょうか。	番号66 型枠についてはB種とお考えください。
番号67 A-2 特記型枠欄で断熱材を兼用した型枠が適応となっており、使用か所に図示による化粧型枠打放し面とありますが、断熱材を兼用した型枠ではなく参考で記載されておりますモールドスター型枠の事と考えて宜しいでしょうか。	番号67 ご質問のとおりとお考えください。
番号68 A-16.17.40 屋内の堅樋仕様について、以下不明点を御指示下さい。 1.特記4(A-4)では防露巻きが適応となっておりますが、数量書には項目が計上されておられません。屋内の樋に防露巻きは不要と考えて宜しいでしょうか。 2.上記より平面図凡例SPの鋼管はSGP(白)素地と考えて宜しいでしょうか。 3.ピット内の平面図凡例VPの樋はカラーVP管ではなくVP管と考えて宜しいでしょうか。 4.A-40 平面詳細図に図示の排水管VPは カラーVP管ではなくVP管と考えて宜しいでしょうか。	番号68 1. 防露巻きについては、ないものとお考えください。 2～4については、ご質問のとおりとお考えください。
番号69 A-15 下記部屋のALC壁面仕上が不明です。 ☐B2・B1F電気集塵機室 ☐B2F搬入室	番号69 地下2階、地下1階電気集塵機室のALC仕上げは防水型複層塗材Eとお考えください。 また、地下2階搬入室のALC面の仕上げは素地とお考えください。

質 問	回 答
番号70 A-24.52 5F 換気塔床のアスファルト防水について、以下不明点を御指示下さい。 1. 矩計図において、パラペットにD1/1と記載がありますが、床アスファルト防水の仕様・納まり共にD1/1の詳細に準ずるものと考えて宜しいでしょうか。また、パラペット笠木及び鼻先の仕上もD1/1の詳細図より塗膜防水仕上と考えて宜しいでしょうか。 2. 平面詳細図に排水溝の図示がありませんが、スラブ勾配のみで側溝は不要と考えて宜しいでしょうか。必要な場合はサイズ・仕上を御指示下さい。	番号70 1. ご質問のとおりとお考えください。 2. 側溝はないものとお考えください。
番号71 A-50 4F B-C/1-2通りの換気塔廻り壁仕上について、平面詳細図ではグラスウールボード貼の様な図示となっておりますが、仕上表・矩計図ではコンクリート打放しB種となっております。壁仕上はコンクリート打放しB種と考えて宜しいでしょうか。不可の場合は、当該壁面の仕上を御指示下さい。	番号71 ご質問のとおりとお考えください。
番号72 A-24.32 換気塔内の梁天端部分は壁面同様にコンクリート素地仕上と考えて宜しいでしょうか。	番号72 ご質問のとおりとお考えください。
番号73 A-15.24 3F換気塔の天井仕上について、仕上表に凡例②のGW-Bと凡例⑥のコンクリート打放しB種の2種記載がありますが、矩計図ではGW-Bの施工範囲が見受けられません。天井仕上は凡例⑥のコンクリート打放しB種が正と考えて宜しいでしょうか。	番号73 天井仕上げについては、6月29日掲載の受付番号6の質問回答書「番号14」をご参照ください。
番号74 A-23 3F換気塔床アスファルト防水の仕様・納まりが不明です。A-70 詳細図D1/1に同じと考えて宜しいでしょうか。	番号74 平場部は、ご質問のとおりとお考えください。 立上り端末については、A-23記載のとおり、金物押えとお考えください。
番号75 A-23 3F換気塔の手摺下立上りRC及び防水端部のRC笠木仕上が不明です。天端及び鼻先共にコンクリート素地仕上と考えて宜しいでしょうか。	番号75 ご質問のとおりとお考えください。

質 問	回 答
番号76 A-70 詳細図D1-14 マシンハッチ用床開口周囲にW100×D100の跳出しRCが図示されておりますが仕上はコンクリート素地仕上と考えて宜しいでしょうか。	番号76 ご質問のとおりとお考えください。
番号77 A-72 詳細図D3-16 ALC壁内のRC面仕上が不明です。コンクリート素地仕上と考えて宜しいでしょうか。	番号77 ご質問のとおりとお考えください。
番号78 A-48 3F換気塔に排水溝の図示がありませんが、スラブ勾配のみで側溝は不要と考えて宜しいでしょうか。必要な場合はサイズ・仕上を御指示下さい。	番号78 側溝はないものとお考えください。
番号79 A-15 2F通信機械室の壁下地にコンクリート下地とGL工法下地の2種記載がありますが、全面GL工法下地と考えて宜しいでしょうか。御指示下さい。	番号79 コンクリート素地の上にGL工法とお考えください。なお、「意匠図A-15」については、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号80 A-71 詳細図D2-6 送風機ファン足元の立上りRC仕上が不明です。天端及び換気ファン室側の立上り共に防塵塗装仕上と考えて宜しいでしょうか。御指示下さい。	番号80 ご質問のとおりとお考えください。
番号81 A-15 B2F トネル消火ポンプ室他 巾木仕上が塗膜防水となっておりますが、ALC間仕切足元に塗膜防水巾木は不要と考えて宜しいでしょうか。	番号81 ご質問のとおりとお考えください。

質 問	回 答
番号82 A-15 B1.2F搬入室の壁仕上が不明です。 壁仕上凡例①コンクリート打放しB種と考えて宜しいでしょうか。御指示下さい。	番号82 ご質問のとおりとお考えください。
番号83 A-40 B2F電気集塵機室の床面に矢印表記がありますが、 トラフィックペイント等の路面表示でしょうか。路面表示の 場合は仕様を御指示下さい。	番号83 風洞内空気の流れを示すものであり、路面標示等 ではございません。
番号84 A-47 2F便所内の手洗器・掃除流し・ペーパーホルダー部 には耐水合板 t12の取付下地を見込んで宜しいで しょうか。	番号84 貴社にてお考えください。
番号85 A-15 2F便所天井ケイカル板は目透し貼と考えて宜しいで しょうか。	番号85 ご質問のとおりとお考えください。
番号86 A-15 2F便所壁 化粧ケイカル板の版間目地はシーリング目地 (シリコン系 6×6)と考えて宜しいでしょうか。	番号86 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P42」について、別 添正誤表のとおり修正いたします。
番号87 A-15 2F便所壁 化粧ケイカル板の出隅にはアルミ見切縁を見 込んで宜しいでしょうか。	番号87 アルミ見切りについてないものとお考えください。

質 問	回 答
番号88 A-47.59 便所隔て板の仕様が不明です。トイレブース同仕様と 考えて宜しいでしょうか。	番号88 ご質問のとおりとお考えください。
番号89 A-33.41.73 B2F D通り可とう式継手の位置及び躯体平面形状 がA-73 詳細図D4-1の図示と平面詳細図・矩計図 で相違します。 平面詳細図・矩計図が正と考えて宜しいでしょうか。 上記で正の場合、平面詳細図・矩計図と整合性のあ る部分詳細図を御指示下さい。	番号89 ご質問のとおりとお考えください。 なお、意匠図A-73については、別添正誤表の通り 修正いたします。
番号90 A-41 B2F 6通り可とう継手に土木工事と記載がありますが 、数量書P49にはスリッパー及び可とう継手が計上 されております。また、A-71 詳細図D2-7には図中に 下図の様な書入れもあり、本工事範囲に含む範囲 が不明確です。具体的に本工事に含む可とう継手 部材を御指示下さい。	番号90 換気ダクトと換気所継手部は本工事に含まれます。 ただし、共同溝と換気所継手部は本工事に含まれ ておりません。
番号91 A-33 B2F D通り可とう継手に土木工事と記載がありませ んが、A-71 詳細図D2-7(下図)では土木工事となっ ております。上記質疑同様に具体的に本工事に含 む可とう継手部材を御指示下さい。	番号91 上記質問番号90の回答をご参照ください。
番号92 A-72 詳細図D3-21 間柱廻りにロックウールの図示がありま すが、A-40 シャッター部のH鋼部にもロックウールは必要と考 えて宜しいでしょうか。	番号92 ロックウールはないものとお考えください。
番号93 A-72 詳細図D3-18・9 開口塞ぎ板PLの仕上が不明です。 溶融亜鉛メッキ仕上と考えて宜しいでしょうか。	番号93 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P49」について、別 添正誤表のとおり修正いたします。

質 問	回 答
番号94 A-15.45 1階消火ポンプ庫の仕上表備考欄に機械基礎と記載がありますが、図示が見受けられません。必要な場合はサイズ・員数を御指示下さい。	番号94 コンクリート工事の打継面処理については、2020年6月29日掲載の受付番号6の質問回答書「番号23」をご参照ください。
番号95 A-15.28.63 5階階段前室の床及び巾木が下記の様に相違します。仕上表及び展開図を正と考えて宜しいでしょうか。 ☐仕上表及び展開図:防塵塗装 ☐矩計図:コンクリート素地	番号95 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「意匠図A-28」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号96 A-28.52 5階前室の段床の段数が下記の様に相違します。 ☐矩計図 3段 ☐平面詳細図 2段 矩計図を正と考えて宜しいでしょうか。	番号96 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「意匠図A-52」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号97 A-28 5階前室の段床仕上が不明です。踏面・蹴上共にモルタル金縷+防塵塗装と考えて宜しいでしょうか。また、段鼻にはノンスリップ金物を見込んで宜しいでしょうか。併せて御指示下さい。	番号97 ご質問のとおりとお考えください。 なお、ノンスリップ金物については、金額を記載しない設計書P47の階段滑り止めとお考えください。
番号98 A-15.30.65 4階所内換気機械室の天井仕上について、仕上表及び矩計図はGW-B、天井伏図はコンクリート打放と相違します。GW-Bを正と考えて宜しいでしょうか。	番号98 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「意匠図A-65」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号99 A-15 4F所内換気機械室 仕上表備考欄に機器架台とありますが、図示がなく詳細が不明です。御指示下さい。	番号99 架台基礎はないものとお考えください。 なお、「意匠図A-15」について、別添正誤表のとおり修正いたします。

質 問	回 答
番号100 A-39 集塵機排水槽について、天伏図に凡例⑨とありますが、凡例欄に⑨がございません。 凡例⑤と考えて宜しいでしょうか。	番号100 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「意匠図A-64」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号101 A-34.64 1F換気ファン室の独立梁型について、天井伏図ではグラスウール貼となっておりますが、矩計図では打放し仕上となっております。矩計図より打放し(B種)と考えて宜しいでしょうか。	番号101 独立梁型については、グラスウールボード貼りとお考えください。 なお、「意匠図A-34」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号102 A-72 詳細図D3-16.20.21 ALC定規アングルのサイズが不明です。L-65×65×6と考えて宜しいでしょうか。	番号102 金額を記載しない設計書P37をご参照ください。
番号103 A-72 詳細図D3-20.21 ALC周囲のRC取合の耐火目地材はロックウール 80kg/m3と考えて宜しいでしょうか。	番号103 ご質問のとおりとお考えください。
番号104 間仕切ALCの開口補強金物のサイズが不明です。L-65×65×6と考えて宜しいでしょうか。	番号104 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P37」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号105 A-72 詳細図D3-16 遮音壁部のアルミ笠木～ALC取合いのシーリングにPU-10×10とありますが、被着体及び図示のサイズより変成シリコン系 15×10が正と考えて宜しいでしょうか。	番号105 シーリングについては、6月29日掲載の受付番号6の質問回答書「番号17」をご参照ください。

質 問	回 答
番号106 A-23 3Fアスファルト防水端部が壁付水切付きの防水押え納まりとなっておりますが、壁付き水切りの仕様が不明です。 御指示下さい。	番号106 アルミ製水切りとお考えください。
番号107 A-23 数量書にはございませんが、3Fアスファルト防水端部の壁付き水切り防水押え金物とRCの取合いには変成シリコン系シーリング 15×10を見込んで宜しいでしょうか。 御指示下さい。	番号107 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P42」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号108 A-70 詳細図D1-12 手摺笠木・支柱・手摺子・横棧の部材の厚みが不明です。御指示下さい。	番号108 手摺 34φ t=3.2 手摺子 16φ t=2.8 手摺支柱 32角 t=1.6 横棧 32角 t=1.6
番号109 A-73 詳細図D4-1 手摺笠木・支柱・横棧の部材の厚みが不明です。御指示下さい。	番号109 手摺笠木、手摺支柱 34φ t=3.2 横棧 21.7φ t=2.8
番号110 A-70 詳細図D1-15 タラップ取付下地のFB-9×50及びφ13のボルトに材種の記載がありませんが、スチール溶融亜鉛メッキ材と考えて宜しいでしょうか。	番号110 FB及びボルトについてはSUS製とお考えください。
番号111 A-70 詳細図D1-15 支持金物の仕様が断面図と平面図の図示で相違します。平面図よりFB-6×65が正と考えて宜しいでしょうか。 また、上記支持金物に材種が記載されておきませんが、ステンレスと考えて宜しいでしょうか。併せて御指示下さい。	番号111 ご質問のとおりとお考えください。 材種については、上記番号110の回答をご参照ください。 なお、「意匠図A-70」について、別添正誤表のとおり修正いたします。

質 問	回 答
番号112 A-70 詳細図D1-16 吊りフックに亜鉛メッキと記載がありますが、下地FB共に溶融亜鉛メッキ仕上と考えて宜しいでしょうか。	番号112 A-70 記載のとおり、U型部の120mmが溶融亜鉛メッキとお考えください。
番号113 A-15 1F集塵機器室の備考欄に流し置場とありますが、流し台の有無及び設置部分の仕上等が不明です。御指示下さい。	番号113 流し台は別途とお考えください。 流し台設置場所は、集塵機室床仕上げと同じとお考えください。
番号114 A-26 2F通信機器室の二重天井内のRC部に打放B種と記載がありますが、型枠はずしのままが正と考えて宜しいでしょうか。	番号114 意匠図A-26記載のとおり、打ち放しB種とお考えください。
番号115 A-3 特記3 21.耐火被覆が適応となっておりますが、特記事項では適応の○印がございます。21.耐火被覆は適応と考えて宜しいでしょうか。	番号115 ご質問のとおりとお考えください。
番号116 A-3 特記3 ALCパネルが外壁パネルで適応となっておりますが、図中では施工範囲が屋内の間仕切部分となります。パネル区分としては間仕切壁パネルが正と考えて宜しいでしょうか。	番号116 外壁用パネルとお考えください。
番号117 A-3 特記3 アスファルト防水の仕様について、A-2の施工箇所に3階ダクトと記載がありますが、5階換気塔内部のアスファルト防水も同仕様と考えて宜しいでしょうか。	番号117 ご質問のとおりとお考えください。

質 問	回 答
番号118 A-5 ビニール床シートの目地処理工法が記載されておりませんが、数量書より熱処理工法と考えて宜しいでしょうか。	番号118 ご質問のとおりとお考えください。
番号119 A-6 トイレシンク欄にモップ掛けフック4個程度と記載がありますが、展開図棟にも図示がなく、数量書にも項目が計上されておりません。該当なしと考えて宜しいでしょうか。必要な場合はメーカー品番を御指示下さい。	番号119 モップ掛けフックについては、2020年6月23日掲載の受付番号3の質問回答書「番号34」をご参照ください。
番号120 A-15 共通事項において、内外装仕上材等の3%を補修材として納品と記載がありますが、内外装仕上材等に該当する仕上材料を御指示下さい。また、数量書に上記内容に関する項目が計上されておりませんが、図面通り必要と考えて宜しいでしょうか。併せて御指示下さい。	番号120 内外装仕上材の補修材については、2020年6月23日掲載の受付番号3の質問回答書「番号30」をご参照ください。
番号121 数量書P37 縦張ALC間仕切の版間耐火目地材が計上されておりませんが、必要と考えて宜しいでしょうか。	番号121 ALC縦張において、版間の耐火目地材はないものとお考えください。
番号122 数量書P41 平面床の塗膜防水が904m2計上されておりますが、図面での積算数量では以下となります。数量は図面での積算数量が正と考えて宜しいでしょうか。不可の場合は、数量書に計上されております数量の施工範囲を御指示下さい。 □床:1118m2	番号122 金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。
番号123 数量書P48 マンホール蓋の仕様にT-2と記載がありますが、屋内マンホール蓋は数量書よりT-2と考えて宜しいでしょうか。	番号123 ご質問のとおりとお考えください。

質 問	回 答
番号124 数量書P49 排水目皿の員数が3か所となっておりますが、A-40.42より4ヶ所が正と考えて宜しいでしょうか。 また、排水目皿の仕様が不明です。ステンレスと考えて宜しいでしょうか。併せて御指示下さい。	番号124 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「金額を記載しない設計書P49」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号125 A-39 ピット内のスリーブ塞ぎ材数量が数量書に見受けられません。図面通り詳細図D1-13の塞ぎ板を見込んで宜しいでしょうか。	番号125 スリーブ塞ぎについては、2020年6月23日掲載の受付番号3の質問回答書「番号32」をご参照ください。
番号126 数量書P48 側溝グレーチング蓋の仕様に普通目T-25と記載がありますが、屋内の排水溝蓋は数量書より全て普通目T-25と考えて宜しいでしょうか。	番号126 金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。
番号127 数量書P49 可とう継手の仕様に下記の記載がありますが、図面では記載内容が見受けられません。数量書記載の仕様が適応と考えて宜しいでしょうか。 □先付け型 伸量:100 沈下量:100 外水圧:0.15Mpa	番号127 金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。
番号128 数量書P49 可とう継手の数量が64.4mとなっておりますが、図面での積算数量では84m程ございます。図面積算数量が正と考えて宜しいでしょうか。	番号128 金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。
番号129 数量書P53 内部の複層塗材について、防水型と防水型でないものがございますが、仕上表(A-15)より全て防水型と考えて宜しいでしょうか。	番号129 複層塗材については、2020年6月29日掲載の受付番号6の質問回答書「番号19」をご参照ください。

質 問	回 答
番号130 数量書P60 内部の床ビニール床タイルの仕様に無地と記載がありますが、図面では記載内容が見受けられません。 数量書記載の仕様が適応と考えて宜しいでしょうか。	番号130 金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。
番号131 数量書P60 配管バックの耐水PBが数量書ではt12.5となっておりますが、部分詳細図(A-72)ではt9.5となっております相違します。 t9.5が正と考えて宜しいでしょうか。	番号131 金額を記載しない設計書のとおりとお考え下さい。 なお、意匠図A-72については、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号132 数量書P62.63 通水管・通気管 L950の員数が図面では4か所、数量書では6か所となっております。 図面での積算数量が正と考えて宜しいでしょうか。	番号132 意匠図A-38 ,39記載のとおり4カ所とお考えください。 「金額を記載しない設計書P62」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号133 数量書P62.63 通水管・通気管 L1050の員数が図面では該当無し、数量書では2か所となっております。 図面より該当なしと考えて宜しいでしょうか。	番号133 通水管・通気管については、2020年6月29日掲載の受付番号6の質問回答書「番号26」をご参照ください。
番号134 A-38.39 平面詳細図に図示のピット通気管・通水管 L1550が数量書に計上されておきませんが、図面より必要と考えて宜しいでしょうか。	番号134 通水管・通気管については、2020年6月29日掲載の受付番号6の質問回答書「番号25」をご参照ください。
番号135 数量書P52 換気風洞パラペットの笠木天端数量が44.4m計上されておりますが、図面では23.9m程となります。 図面数量を正と考えて宜しいでしょうか。	番号135 金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。

質 問	回 答
番号136 下記項目のメーカー品番を御指示下さい。 ☐B2F EPS内 排水溝蓋(A-72.73) ☐便所床ビニール床シート(A-15) ☐床防塵塗装(A-15) ☐ビニール床タイル(A-15) ☐フリーアクセスフロア(A-15) ☐トイレブース(A-47.59) ☐便所隔て板(A-47.59)	番号136 メーカー及び品番の指定はございません。
番号137 A-69 SD7,SD8について、建具表には仕上がDPとありますが、内部建具のためSOPに読み替えて宜しいでしょうか。	番号137 ご質問のとおりとお考え下さい。 なお、「金額を記載しない設計書P58及び意匠図A-69」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号138 A-69.73 SDW1について、建具表と部分詳細図(4)で仕上が下記のようにくい違います。建具表を正と考えて宜しいでしょうか。 ・建具表…SOP ・部分詳細図(4)…DP	番号138 ご質問のとおりとお考え下さい。 なお、「金額を記載しない設計書P57及び意匠図A-73」については、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号139 金抜設計書53 金抜設計書内部左官工事の建具周囲モルタル充填について、金抜設計書266mに対して、積算数量345mとくい違います。積算数量を正と考えて宜しいでしょうか。	番号139 金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。
番号140 金抜設計書58 金抜設計書外部塗装工事の鋼製建具面DP塗について、金抜設計書207㎡に対して、積算数量115㎡とくい違います。積算数量を正と考えて宜しいでしょうか。	番号140 金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。
番号141 金抜設計書 P.154 スクラップ控除(建築工事)鉄くず1式の計上方法が不明です。詳細についてご教示願います。	番号141 金額を記載しない設計書P73～75の外構撤去及び隣地境界改修で発生する鉄くずとお考えください。

質 問	回 答
番号142 意匠図A-19、構造図S-18 6月5日付けの質疑回答番号6について、A-19南側立面図とS-18のDW55の天端レベルが不整合しています。この部分の納まり詳細についてご教示願います。	番号142 A通り・⑥通り東側DW55の土留め壁については、意匠図A-19を正としてお考えください。 なお、「構造図S-18」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号143 意匠図A-13、特記仕様書P.6 6/5付質疑回答番号11より、掘削着手前地盤レベルはOP+1.28mと回答いただきましたが、A-13図では計画建物の現況レベルはOP+1.60と読み取れます。本見積の掘削開始レベルはOP+1.28mと考えてよいでしょうか。ご教示願います。	番号143 ご質問のとおりOP+1.28を掘削開始レベルとお考えください。
番号144 金抜設計書P.9 金抜設計書の土工事の根切数量は12,784m³となっていますが、弊社で換気所新築工事の根切数量を算出すると10,304m³となりました。金抜設計書には換気ダクト外部分の根切数量も含まれていると考えてよいでしょうか。そうでない場合は換気ダクト外部分の根切数量を算出できる資料をご教示願います。	番号144 ご質問のとおりとお考えください。
番号145 金抜設計書P9、10 特記仕様書P6 土工事の内訳書に連続土留壁の建設発生土運搬・処分の項目がありますが、根切土の建設発生土運搬・処分が計上されていません。特記仕様書3-3-4)に発生土の運搬費・仮置き費・処分費については本見積には含まれないと考えてよいでしょうか。ご教示願います。	番号145 ご質問のとおりとお考えください。
番号146 金抜設計書P67 構内舗装の内訳書に盛土(B種)発生土925m³とありますが、この発生土は上記の土工事で発生した掘削土と考え、仮置き場からの場内への運搬費は本見積に含まず、埋戻し手間のみ計上すると考えてよいでしょうか。そうでない場合は仮置き場の場所をご教示願います。	番号146 ご質問のとおりとお考えください。
番号147 金抜設計書P67 構内舗装の内訳書に盛土(B種)発生土925m³とありますが、この発生土は別途土木工事のトンネル函体掘削時に発生する建設発生土で、別途工事で敷地東側に仮置きされるものとし、その発生土を転用できると考えてよいでしょうか。ご教示願います。	番号147 上記回答147をご参照ください。

質 問	回 答
番号148 特記仕様書 別紙－1 意匠図A-14 標準工程に記載されている別途工事のトンネル函体とU型擁壁とは意匠図A-14の⑤通り東側のトンネル函体と⑤通り西側のU型擁壁を示すと考えてよいでしょうか。そうでない場合は別途工事施工場所をご教示願います。	番号148 ご質問のとおりとお考えください。
番号149 A-6 特記仕様書 排水工事 屋外雨水排水においてVU管が適用となっておりますが、該当施工範囲が不明です。 本工事には適用無しと考えて宜しいでしょうか	番号149 ご質問のとおりとお考えください。 なお、「意匠図A-6」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号150 A-7、A-79 植栽工事において、下記の不明点を御指示下さい。 1)植栽基盤の整備において、樹高3m～7m未満の樹木範囲(H=600)の整備面積は直径2.0m程度と考えて宜しいでしょうか。 2)土壌改良について、特記仕様書では適用と なっておりませんが、受領設計書では土壌改良（下水汚泥コンポスト）が計上されております。土壌改良は適用とし、受領設計書数量を見込むと 考えて宜しいでしょうか。 3)地被類について、特記仕様書では適用となっておりますが、植栽計画図では記載がありません。本工事に地被類は適用無しと考えて宜しいでしょうか。	番号150 1.貴社にてお考えください。 2. ご質問のとおりとお考えください。 なお、意匠図A-7については、別添正誤表のとおり修正いたします。 3. 屋上緑化部植栽とお考えください。
番号151 A-81 外構詳細図(1) 設備基礎について、捨てコンクリートt=50を見込むと考えると宜しいでしょうか。	番号151 捨てコンクリートは、ないものとお考えください。
番号152 A-81 外構詳細図(1) コンクリート舗装に記載のある伸縮目地について、目地切(シブ目地)と考えて宜しいでしょうか。	番号152 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)をご参照ください。

質 問	回 答																					
番号153 A-82 外構詳細図(2) L型擁壁Aに記載のある流出防止材について、仕様詳細及び施工範囲が不明です。御指示下さい。	番号153 流出防止材については、ないものとお考えください。																					
番号154 A-82 L型擁壁Bの仕上について、L型擁壁A同様の打ち放し仕上と考えて宜しいでしょうか。	番号154 ご質問のとおりとお考えください。																					
番号155 A-71 外部土間階段 段鼻 樹脂系滑り止め塗料について施工幅寸法が不明です。メーカー品番がありましたら併せて御指示下さい。	番号155 段鼻 樹脂系滑り止め塗料の施工幅については30mmとお考えください。 メーカー及び品番の指定はございません。																					
番号156 外構工作物 コンクリート強度について、特記なき限りFC21N S15 (捨てコンクリート FC18N S15)と考えて宜しいでしょうか。	番号156 外構工作物コンクリート強度について、意匠図A-81,82に記載のとおりお考えください。 なお、捨てコンクリートについては、ご質問のとおりとお考えください。																					
番号157 金抜設計書65、67、73 下記項目の受領設計書数量と積算数量において数量差異が見受けられます。積算数量を正と考えて宜しいでしょうか。 <table><tr><td></td><td>設計書数量</td><td>積算数量</td></tr><tr><td>・囲障 根切り</td><td>78.5m3</td><td>120m3</td></tr><tr><td>・囲障 埋戻し</td><td>63.0m3</td><td>74.3m3</td></tr><tr><td>・構内舗装 盛土</td><td>925m3</td><td>1081m3</td></tr><tr><td>・工作物 外部土間階段</td><td></td><td></td></tr><tr><td>床防水モルタル塗</td><td>2.9m2</td><td>4.8m2</td></tr><tr><td>階段防水モルタル塗</td><td>11.1m2</td><td>19.6m2</td></tr></table>		設計書数量	積算数量	・囲障 根切り	78.5m3	120m3	・囲障 埋戻し	63.0m3	74.3m3	・構内舗装 盛土	925m3	1081m3	・工作物 外部土間階段			床防水モルタル塗	2.9m2	4.8m2	階段防水モルタル塗	11.1m2	19.6m2	番号157 金額を記載しない設計書のとおりとお考えください。
	設計書数量	積算数量																				
・囲障 根切り	78.5m3	120m3																				
・囲障 埋戻し	63.0m3	74.3m3																				
・構内舗装 盛土	925m3	1081m3																				
・工作物 外部土間階段																						
床防水モルタル塗	2.9m2	4.8m2																				
階段防水モルタル塗	11.1m2	19.6m2																				

質 問	回 答
番号158 金抜設計書P114,E-40～43 金抜設計書にて【自動閉鎖設備】の感知器が「光電式スポット型煙感知器(3種 非蓄積型 露出型)」×2個、「差動式スポット型熱感知器(2種 露出型)」×4個と記載されていますが、図面では「光電式スポット型煙感知器(3種 非蓄積型 露出型)」×4個、「定温式スポット型熱感知器(特殊 防水型)」×4個と読み取れます。図面を正とし、金抜設計書を変更するものと考えてよろしいでしょうか。	番号158 設計図面が正となります。 なお、「金額を記載しない設計書P112」の該当箇所については、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号159 M-01 特記仕様書(1)に記載されている、一般特記事項のうち、○29 配管(2)建物導入部配管について、「変異を吸収できるようにスリークッションとする。」を適用すると考えてよろしいでしょうか。	番号159 適用しないものとお考えください。
番号160 金抜明細書P134 空調配管設備工事 屋内外機渡り配線 について、数量一式にて計上してよろしいでしょうか。	番号160 金額を記載しない設計書に記載のとおり、「m」単位にて計上願います。
番号161 金抜設計書P134、M-04～09 前項の質疑のご回答が不可である場合、設計図に記載のある通り、屋内配線はEM-CEES1.25□-2C、屋外露出部はCVVS1.25□-2Cに分けて見積書に計上してよろしいでしょうか。	番号161 「金額を記載しない設計書P.132」について、別添正誤表のとおり修正いたします。
番号162 金抜設計書P148、M-19 M-19衛生設備配置図において、「注記:1)水道本管より給水機メーター用止水栓までは水道局指定業者施工都市別途工事とする。」と記載されています。しかし、「量水器40mm(水道局貸与品)取付は本工事」とも記載されています。また、金抜き明細書P148、149の屋外給水設備工内訳書には量水器40mmの取付は記載されていません。図中の「量水器40mm(水道局貸与品)取付は本工事」の記載を正として見積書に計上してよろしいでしょうか。	番号162 上下水道の引き込み工事(量水器の取付を含む)については、海老江換気所新築工事で実施します。ただし、工事費については海老江換気所新築工事特記仕様書補足事項 3-10 機械設備 3)に記載のとおり、契約後の設計変更にて追加予定であるため、現段階では計上していません。

質 問	回 答
番号163 金抜設計書P133、M-01、04 空調用排水管の管材について、M-01特記仕様書(1)●空気調和設備⑧配管材料には「配管用炭素鋼鋼管(白)」、M-04空調設備 系統図の凡例には「硬質塩化ビニル管(VP)」、金抜き明細書P133では「排水・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発砲三層管(RF-VP)」と記載されており、相違しています。金抜き明細書を正としてよろしいでしょうか。	番号163 空調用排水管の管材については、2020年6月29日掲載の受付番号5の質問回答書「番号5」をご参照ください。